千里国際学園　中等部・高等部

「世界は千里でひとつになる　The World Comes Together in Senri」シリーズ
第10回　アメリカの大学へ進学した卒業生達

アドミッション／英語科　　井藤 眞由美

アメリカ滞在中の皆様、充実した日々を送っておられることと思います。現地校に通っておられる皆さん、現地校での勉強・生活にはもう慣れましたか？来たばかりで「今まさに悪戦苦闘中だよ」という人もいるでしょう。現地校での学習の仕方がやっとわかって楽しくなってきたところという人もいるでしょうし、気がついたらアメリカでの学習にすっかり慣れ、日本に帰る自分というのを想像するのは今となっては難しいな、と感じている人もいるでしょうね。

「いつかその日が来たら家族と日本に帰る。それも楽しみだけれど、将来自分の専門的な勉強をする場所としては、やっぱりまたアメリカに戻って来たいな」と、はっきりと、または漠然とでも感じている皆さんへ

千里国際学園（SIS）では、毎年卒業生の１－２割が、卒業後直接海外の大学へ進学します（ちなみに、交換留学の制度を持っている日本の大学に進んでそこから留学する生徒や、日本の大学を卒業してから海外の大学院に進む生徒を含めるとかなり大きな割合になると思います）。

これまで紹介させていただいたように、SISは、併設の大阪インターナショナルスクール（OIS）と、二つの学校が一つになった環境で学習や課外活動をする学校です。多文化・バイリンガルな環境、リサーチやプレゼンテーションを重視した学習スタイルを持つSISは、北米の現地校での学習に慣れているあなたにとってスムーズに日本での学習を進められる場としてあなたの帰りを待っています。また、第七回の記事で進路情報室長の新見教諭より詳しく説明があったように、海外の大学への進学を希望する生徒にとっては、SISとOIS両方のカウンセラーから、アドバイスや情報提供を受けることができる体制も整っています。

このようなSISで学んだ後アメリカの大学に進学した卒業生たちは、実際どのようなコースをたどったのでしょうか。これまで北米から帰国し、SISを卒業後に北米の大学に進学した人たちの中から３人の人にインタビューしてみました。彼ら彼女らの生の声を交えて紹介させていただきます。

◆ Aさんの場合
University of Toronto
Communication, Culture and Information Technology 専攻

「とにかく、SISにいなければこんなに満足して海外の大学の受験はできなかったと思います。OISがあるおかげで、SATを学校で受けることもできるし、カウンセラーの先生はもちろん、いろんな国からの先生がいるので各国の事情を直接教えてもらえる。相談もできる。日本の高校でこれだけできる学校はSISだけだと思います。」と強く言い切ってこの夏カナダへ旅立ったAさん。いつも元気いっぱいのパワフル少女。学校中で彼女のことを知らない人はいないといえるほどあらゆる場面で大活躍をしてくれた人です。

Aさんは、ミシガンに２年半（その前は台湾のアメリカンスクールに５年）滞在し、SISには、中学２年生の秋に編入しました。当時ミシガンでの生活があまりに楽しく、日本への帰国を受け入れることが難しかったそうです。しかしその想いがあったからこそ、日本でも、SISの環境を最大限に活かし、「英語力をさらに伸ばすために人一倍頑張った。自分にとても厳しく過ごしたことには強い自信がある。」といいきれるSIS生活を過ごしました。OISに友達も多く、編入から卒業するまで学校内での日常会話のほとんどを英語ですごす生活をしていました。

９年生からはOIS English の授業がはじまり、初めてのシェークスピアなどに苦労はしたそうですが、ますます英語での学習に力を入れ、SISでの選択英語授業も含め、毎学期２－３種類の英語の授業（つまり週に10－14時間）をとるようになり、さらにOISの授業の「IB History」「IB Music」も受講しました。

授業以外にも、生徒会での通訳の仕事、年に一度の校内ミュージカル、吹奏楽・コーラスでの海外遠征チーム参加、校内テレビ放送での司会、、、など、英語力を活かすことのできる活動として考えうるものすべてに参加していた、といえるAさんです。

もちろんここに書いた以外の授業は日本語で受けており、日本語での学習も問題なく続けて非常に高いレベルのバイリンガル度を身につけた人ともいえます。在学中に英検一級に合格、TOEFLも270点をマークしました。

こんなAさんにとって、北米への大学進学ということは　あらため